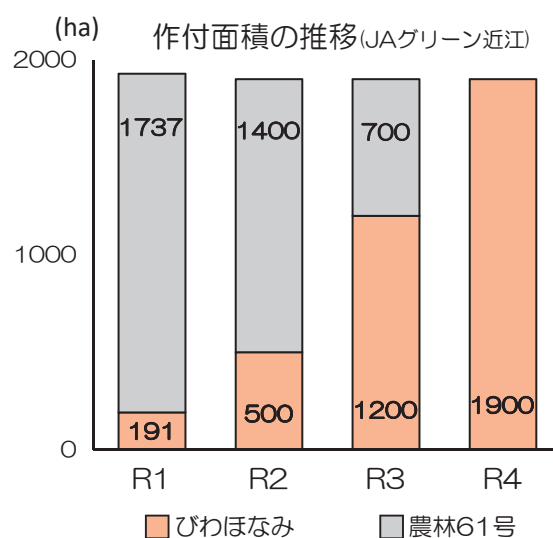
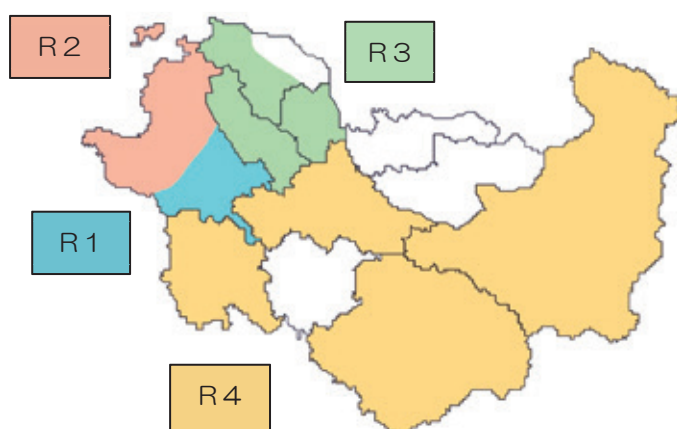


小麦新品種「びわほなみ」の作付面積が拡大中！

東近江地域において、小麦は水稻に次ぐ中心的な作物として約3,100ha栽培されており、主食用米の需要が減少し続ける中でその重要性が高まっています。

なかでも、JAグリーン近江管内では、その6割以上にあたる約1,900haの小麦が栽培されています。これまで「農林61号」が栽培されていましたが、収量や品質が不安定であったことから、その高位安定化を図るために小麦新品種「びわほなみ」への作付転換を順次行い、令和4年産で全面転換されました。



品種転換に当たっては、播種時期や防除を始めとした品種特性に合わせた栽培方法や留意点を十分周知し、その実践に向けた支援が現場で求められます。

そこで当課では、JAグリーン近江と連携して栽培研修会や巡回調査を実施し、品種特性に適した栽培が実施されるよう支援に取り組んできました。



播種前研修会の様子

びわほなみの栽培ポイント

農林61号と比較して、

- 播種時期を必ず遅らせる
(凍霜・病害発生リスク軽減)
湖辺・平坦 11月10日～、中山間 11月5日～
- 莖立期の穂肥に重点をおいた施肥
(穂数と1穂粒数の増加による増収)
- 赤かび病防除は、2回必須
(良品質麦の生産)

令和5年産ではJA湖東管内でも「びわほなみ」への全面転換が行われる予定であり、これまでの活動で得た知見を活かしながら、「びわほなみ」の品種特性を最大限に引き出す栽培が実施されるように支援を継続し、収量・品質の高位安定化を通じて小麦生産者の収益性向上を目指します。